

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100127		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター大垣墨俣		
所在地	岐阜県大垣市墨俣町墨俣452		
自己評価作成日	平成24年7月12日	評価結果市町村受理日	平成24年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様を中心としてご家族と話し合いニーズに応じたケアプランの作成、サービスを提供しています。急な利用変更においても、柔軟な体制で対応しています。利用者様と職員が会話する時間が多くあり、家庭的な雰囲気があります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100127-002P.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=021">http://www.kai.gokensaku.jp/21/i/ndex.php?acti_on_kouhyou_detail_2010_021_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192100127-002P.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=021</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年8月28日		

地域との交流が活発で「こども110番」として登録し、子どもや地域住民の自由な出入りが日常的に行われ、利用者や職員も頻りに往き来し活動場が広がっている。利用者や家族から気軽に相談を受け、急な泊りなどに速やかに対応するようにしている。管理者は地域の方々に小規模多機能事業所を知って貰うことに力を入れ、自治会・地域見守りネットワーク・民生委員の人たちと連携を密にとっている。地域のお祭りでは団子の屋台を出し積極的に参加している。スタンプラリーというイベントでは、スタンプポイントとなり居間につり雛を飾って気軽に来訪して貰うようにして交流し、地域に密着した事業所となる努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔を第一に、利用者様1人1人のペースに合わせ利用者様の立場に立って言葉かけ、その人しさを大事にをモットウを実践しています。	設立時に職員と一緒に話し合い作り上げた「笑顔第一」という理念を共有し実践している。職員は、常に笑顔で接することを心がけ、利用者から笑顔が返ってくる喜びを実感しながら日々のケアを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のつり雛などスタンプラリーに参加、校区の子供100番番に参加、新聞を作りポステング、回覧板にも入れて頂く。	小規模多機能事業所の存在を認識して貰うことに力を入れ、地域行事やお祭りに積極的に参加している。日々の散歩中の会話から、スタンプラリーの行事に参加し、事業所の居間につり雛を飾り、気軽に来所し楽しめるよう工夫し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんを通して 地域の皆様に小規模多機能型サービスを紹介し、新聞を作り2ヶ月におきにポステング		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 運営推進会議を開催。サービスの利用状況や活動の報告を行い、ご家族様、委員さんのご意見や質問を聞いて、サービスの質の向上を目指している。	地域の行事やお祭りの情報・参加の方法、また、利用者と職員の散歩中の様子を教えて貰うなど活発な話し合いを行っている。外部評価の結果報告もしているがサービスの向上に積極的に活かされていない。	評価結果の報告だけでなく、取り組み状況などの意見を活かし、サービスの質の向上について全職員での話し合いを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1～3回程、市役所の高齢課、社会福祉協議会、地域包括支援センターに出向き情報交換、支援を受けています。	市の担当者と定期的に意見交換を行い、いつでも相談できる関係がある。自宅2階での生活は転倒する危険がある為1階での生活に繋げるなど、市と連絡調整して利用者の安全な暮らしの確保をしたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、拘束のしないケアについて理解と話し合いをし、実践し、毎週確認を全スタッフでしている。	全職員は、日々のケアで疑問に感じた事や気づいたことをその都度話し合い、身体拘束をしないケアを確認し合っている。些細なヒヤリハット内容も全職員で検討し、具体的に身体拘束をしないことを理解し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、『虐待は絶対にしてはいけない！』ということを職員に周知徹底、理解し実践している。また入浴時には状態把握をしている。		

ニチイケアセンター大垣墨俣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて、理解はしているが、現在当施設には該当者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面にて契約の重要事項説明書を交わし、家族様の質問に応じ、サービスの内容に理解、納得して頂いてから契約を交わし、時々家族様に状態説明と介護に付いての確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情相談窓口(本社、事業所)が24時間 365日対応していることを説明している。また利用者のご家族に運営推進会議に参加していただき、意見をだしていただき、運営に反映している。	管理者や職員は送迎時などに家族から意見や要望を聞いている。「献立に生野菜が少ない」との意見が出たので、庭に菜園を作り本部からの食材のほかに、近隣の店で購入して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、夕礼の申し送り時や月1回の全体会議にて、意見や提案を聞いて運営に反映している。	管理者は月一回の全体会議でも検討し、いろいろな機会に職員からの意見を聞いている。意見が気軽に言える雰囲気がある。事業所内の環境整備に空気清浄器の設置やゴミ置き場の整備等、意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を利用、各係りの仕事をスタッフで、考え実行にて、やりがいを全員で分かち合える様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ全員が同じケアが出来る様に、話し合い理解し切磋琢磨されるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市の介護事業者連絡会や小規模多機能連絡会に出席して、研修、情報交換し、サービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用サービス開始前にはアセスメントを本人の状況の理解。ニーズを確認しながら、ケアプランの作成。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族にもお話を伺い、ご希望にあうよう柔軟に対応。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでお聞きしたことや状況をもとにすこしでも在宅での生活が維持できるように住宅改修や福祉用具の活用を含め、本人やご家族に助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員との信頼関係の構築。家庭的な雰囲気でのサービスの提供。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は介護されている 家族の思いを理解し、それに添うようにし、ご家族と共にご本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の来訪時には相談室等でゆっくり話せる環境をつくっている、又スタッフも家族と話す機会を取っている。	久しぶりに面会する家族には相談室で気兼ねなく話せるよう配慮している。行き慣れた商店での買い物や喫茶店に外出している。電話連絡などで友人や知人の訪問を促し、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様の席を近づけたり、コミュニケーションの困難な方には職員が間に入るなど利用者様同士が交流できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後、家族様の近況状態の為訪問をさせて頂いたり、電話での相談を受けたり、又入所先等へ経過観察にも、家族様の希望があれば訪問をさせていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前にはご本人、ご家族から家庭での様子や やわらぎでどのように過ごしていきたいか等聞いている。また送迎時や入浴時などの個別対応時には声かけし、思いを聞き取るよう努力している。	職員は利用者がゆったりとした気分の時に声をかけ、入浴時に個別対応やシャワー浴・足浴で対応して思いの把握に努めている。把握の困難な人は日々の会話の中で、表情の変化やしぐさで思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前のアセスメント時に聞き取るよう努力しているが、まずは馴染みの関係をつくり、それからの会話の中で聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭での1日の様子も考慮しながら 横になって過ごす時間を作るなどしている。またADLを把握し、個々に応じた生活が送れるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスを利用していく中で気づいたことはみんなで情報共有している。変更があった際にはその都度ケアプランを見直している。	利用者・家族の意見・要望を聞き、看護師・かかりつけ医の意見をもとに職員で話し合っている。利用者の力を活かすことを大切に目標を定め、介護計画を作成している。状況の変化や職員の気づきを基にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事があればすぐに個人記録に記入している。また申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定のサービス利用にとらわれず、ご本人やご家族から希望があった際にはサービスの利用や変更できるよう配慮している。ただ、毎日通い利用を希望される方もいらっしゃるのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや民生委員さんと連携して安全、安心に生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用日にはバイタルチェックを行い、変化時等は連絡をし指示を仰ぐようにしている。また受診時にはご家族の理解が得れば付き添ったり、主治医にやわらぎでの様子を書面にて伝えている。	かかりつけ医への受診は家族が行い、薬の変更など結果報告をして情報を共有している。家族の要望で職員が同行し受診する場合は、事業所での様子を詳しく書面で伝え結果は家族へ報告している。往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のもと、常に健康状態の把握を行っている。また主治医にもやわらぎでの様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はなるべく面会に行き、主治医や担当の看護師に状態をお聞きし把握するようにしている。またご家族ともまめに連絡をとり、退院後も安心して利用できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行ったことはないが、要望があった際にはご家族、主治医、職員と情報共有し連携を図り支援していきたい。	重度化や終末期については、契約時に事業所の方針を説明し、同意を得ている。重度化する段階に応じて利用者や家族と話し合い、要望があれば、家族・かかりつけ医・職員と方向性を共有し、できる限り要望に沿う努力をして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『お客様急変時対応マニュアル』があり、急変時はそれに従い動くようにしている。看護師がいる際には指示を仰ぎ、主治医・ご家族に連絡する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の時に地域の方と共に消防訓練を実施。協力体制がある。また災害時の緊急連絡網、備品、食料の準備がある。	利用者と一緒に地域住民も参加して、避難訓練を実施し、会議等で地域との協力体制を話し合っている。消火器操作・緊急電話の掛け方・利用者の避難方法等の訓練を行っているが、夜間想定訓練は行っていない。	泊りの利用が多いので、夜間を想定した訓練の計画を全職員で話し合い、実施される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個性を尊重し一人ひとりに合わせたケアを行い尊厳やプライバシーを損ねない声かけをしている。	職員は誇りやプライバシーを損ねない声掛けを心掛けている。「笑顔で接し、笑顔が返ってくる」ことで、改めて一人一人の人格を尊重することに繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や言葉を注意深く観察、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、個々のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回 移動美容室にきていただき、本人の希望に応じカットしている。(毛染めもOK)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立委員会が中心となって毎日のメニューを考えている。またノートを活用し、人気のあったメニューを書き残し、参考にしています。食後は利用者様に食器拭きを手伝っていただいています。	利用者の好みを考慮した献立を法人本部に発注し、調理された食事が配達される。事業所では生野菜や汁物・おやつを工夫し提供している。しかし、職員は立ったまま見守り、利用者と一緒に食事をすることはしない。	利用者に献立の意向や感想を聞いたり、準備・片付けをしたり、個別の力を活かすなど、より一層食事を楽しめる工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合わせ調節したり、嚥下状態に合わせて刻み食で対応、また減塩食も提供。水分もしっかり取っていただけるよう声かけ、摂取量は記録し体調管理等に役立っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、実施しています。一人で出来ない方は職員の介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットの使用を減らす為、個々の排泄パターンを把握、時間を見ながら声かけにて誘導しています。	個別の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りし、自立に向けた支援をしている。訴えのない利用者は、時間をみてトイレ誘導をしている。自宅での排泄も個々の利用者・家族に合った方法を助言している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量 排泄、活動状況を把握。便秘時には入浴、トイレ介助時に腹部マッサージしたり、水分を取っていただけよう声かけしています。またご家族とも相談しながら自然排便の工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にて対応。本人やご家族の希望に沿って決めている	利用者の希望に沿って入浴日を柔軟に変えている。個浴で職員とゆっくり会話しながら入浴を楽しんでいる。体調に応じて機械浴で対応できる。入ることを拒む利用者には声掛けの方法を変えて入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や状況に応じソファでくつろいだりベットに横になって休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往症や現症を把握。効能や副作用、用法や用量を理解している。誤薬や飲み忘れが無いよう、服薬介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティの内容を工夫し楽しく参加してもらえるようにしています。また得意なことで個々の能力をだしていただけるお手伝いも考えてます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はしていません。天気の良い日に散歩に出かけることがたまにあります又月1回はアクテプティにて、外出を心がけています。	花見など計画を立て回数・数日間かけて、利用者みんなが参加できるように工夫している。小学校の運動会見学や近くを散歩するなど利用者全員で外出する機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は必要ないので持参しないように呼びかけていますが、ご本人がお金を持つ事で安心されると言われる方はご家族と相談、最小限の金額で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方が通い利用の為、事業所内ではそのような支援はしてないです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やディルームには季節のお花を飾っています。またお花以外にも生活感や季節感を出すように飾りつけし居心地のいい雰囲気作りを心がけています。	利用者で作った季節ごとの作品や行事の写真を飾って、季節感を演出している。居間には西日を遮る遮光ネットをかけて暑さ対策をしている。空気清浄器を置いて気持ち良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置等は気の合った同士で過ごせるよう配慮しています。テレビも自由に見られるようになってます。疲れて休むベットは個室になってます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの居室は洋室、和室(ベット、布団)があり個々の希望や状況に応じ泊まっていたいでます。	好みに合った寝心地良いベットに買い替えたり、厚みや硬さの異なった布団を用意したりして、利用者が居心地良く泊まる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、ディルーム、トイレ、お風呂には手すりがついており、個々の身体機能を生かした介助ができ、自立支援となっております。		